

〔表2〕タサキハイツの例

住 宅	住居専有面積	譲渡価額	公庫融資額	自己資金
分譲マンション	100.51㎡ バルコニー(12.97㎡)	19,600千円	11,000千円	8,600千円

ゆとりある文化生活を望む声は多い
(写真はタサキハイツ)



えたもので、都市化のすすんだ熊本にとって、このように土地を高度に利用し市街地開発を進めることは重要な行政の一つと考えられます。

このほか資金対策として、一般分譲住宅制度や積立分譲住宅制度などもあります。

公営住宅の増設を

住宅を個人の力で持つのは難しいし、二DKや四DKのゆとりのある借家は高すぎて入れないという人のために、県下には約六千七百戸の県営住宅があります。ただ、

そのほとんどが需要に応じて熊本市に集中してありますが、近年の県内での地域的な人口の増加と、都市政策なり都市計画との整合性も考慮して、今後の建設計画を改善していただく余地があるようです。また現在建築中のものは、県民の欲求を把握し、老人のための

地域的な人口増加と都市計画との整合性を考慮した上での住宅建設計画が望まれる。



から、賃貸条件の一部として所得制限が設置してありますが、もう少し実態を踏まえただうえて収入基準を設けていただかなければ、現在の基準値では、ボーダーラインを少し越えただけで退居させられた場合、戸惑われる方が多いのではないでしようか。公営住宅の質の向上とともに、量の充実も図っていただきたいという声が多かったようです。

ゆとりのある文化生活のために

このように「住まい」を単に住むための器と考えることなく文化面で捉え、地域ごとにその特性を生かし自然と調和させ、ゆとりのある生活が営めるよう配慮がなされているという点で、他県から熊本へゆとりある生活を求めていらっしゃる方もあるとのこと、熊本県民として誇りに思います。ただ、公営住宅の場合、市町村等の約一万五千戸の住宅を加えても、

約三万二千戸と県下の全住宅戸数の約六%にしかならないなど、量の不足については、県の住宅行政の課題としていただきたいと思います。それに、高額の花となつてしまった「家」を購入できるような資金面での援助について、さらに色々な制度を設けていただくことが必要だと感じました。

一方私達県民もまた「住宅とは社会的生活を支える重要な基盤である」という意識を高め、住宅水準の向上を目指して、力を一つにすることが問題解決につながる大きな原動力になると思います。

今回の取材を通して、「住まい」の中に、ある意味での文化が溶け込み、県民の要望も多元化している中で、県の住宅政策も多方面にわたって検討されていることが理解できましたが、同時に今後は、もっと広範囲にわたり対応しなければならなくなるであろうと痛感しました。

住宅団地に建設される集会所は、地域住民のコミュニティ広場としてその機能を十分に果たしている。

